

算数科

単元名 「なかまづくり」
指導時数 3時間扱い

ねらい

- ・身の回りのものの数量に関心を持ち、数や量の概念の基礎となる経験をする。
- ・観点や条件を明確にしなが集合をつくる。
- ・集合の要素の個数について、1対1対応による比較の仕方を理解し、数を比較する。

幼稚園・保育所で経験してきたこと

- ・日常生活の中で、同じ仲間（種類・形・色・大きさ等）を集合としてとらえ、仲間分けをすることをごっこ遊びや遊具の片付けなどを通して経験している。
- ・遊びの中で体験した具体的な姿から、物の名前や仲間などの概念が芽生えるように、環境設定や、働きかけが行われている。
- ・ごっこ遊びやゲーム、リレーやドッジボールといった遊びをはじめ、教材の配布、係活動、給食やおやつ配膳といった生活の中で、1対1対応を経験させる場面が意図的に作られ、指導が行われている。

接続を踏まえた指導の工夫

- ・集中力が続かないことを考慮し、教科書の挿絵を見て、話し合う活動とゲーム的な要素を取り入れた活動を行う。静的な活動、動的な活動を入れることにより、入門期の児童が楽しく、しっかり学習ができる。
- ・学習のルールについて、繰り返し確認しながら行うようにする。

学習活動例

時間	コマ	学 習 活 動	○配慮事項 ☆他教科等との関連★幼児教育との関連
1	3	<p>1 どんななかまがいるか、絵を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこにどんなものがありますか。 ・どこに何がいますか。 <p>2 「やおやおみせ」の遊び歌を歌い、知っているやさいやくだものの名前を言う。(やおや以外のお店に替えて歌ってみる。)</p>	<p style="text-align: center;">算数 1 【6日目】</p> <p>☆学習内容に入る前に、学習用具の準備の仕方や教科書の開き方など指導する。</p> <p>○プロジェクターで教科書の絵を映す。</p> <p>☆発言の仕方など学習のルールを、少しずつ伝えながら、学習を進めていく。</p> <p>○見付けた集合がどこにあるのかを説明するとき、簡単な位置や方向を表す言葉について指導していく。</p> <p>○集合の要素となる言葉を増やしていく。</p> <p>★幼児期にも親しんでいる、遊び歌を歌いながら集合の要素となる言葉を増やしていく。</p>
1	3	<p>1 何がどんなことをしているかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモさんはブランコをしている。 <p>2 ほかの観点について集合づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコをしているのは、だれですか。(先生が問題を出したり、児童が問題を出したりする。) <p>3 いろいろな観点や条件でなかまづくり遊びをする。</p> <p>遊び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なーかま なかま」「なーんのなかま」「○○のなかま」・(手拍子)・「みーつけた」と節をつけて、掛け合いで集合の条件を言ったり、見付けたりする。 ・その条件にあったものを持ち上げたり、 	<p style="text-align: center;">算数 2 【7日目】</p> <p>○プロジェクターで教科書の絵を映す。</p> <p>☆児童が問題を出すときの話し方や聞き方を指導する。</p> <p>☆生活科の「ともだちとなかよくなるろう」と関連させる。(同じ集合になった同士で仲間意識が芽生え、友達になるきっかけとなることがある)</p> <p>★ゲーム的な要素をもつ集合遊びを取り入れることで、楽しんでなかまづくりを行うことができる。掛け合いのある遊びは、幼児期に経験もあるため、親しみやすい。</p> <p>○身の回りにあるものも、観点や条件を決めること</p>

時間	コマ	学 習 活 動	○配慮事項 ☆他教科等との関連★幼児教育との関連
		<p>その条件にあった人は立ったりする。 ・他の人は、その条件の物や人を見つけて指をさす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆箱のなかま ・赤い筆箱のなかま ・書くもののなかま ・えんぴつのなかま ・木のなかま ・黄色いもののなかま ・ズボンをはいているなかま ・髪を結んでいるなかま ・サッカーが好きななかま </div>	<p>によって、様々な集合が作れることをとらえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色（筆箱の色、服の色）、用途（書くもの、読むもの）、材質（布、木、鉄） ○観点を広げたり、条件を絞ったりして、いろいろな集合を作れることを理解できるようにする。
1	3	<p>1 数を比べた経験を思い出す。</p> <p>① トランプやかるたをしたとき、だれが多いかを比べるのにどうやっていたか、思い出す。(実際にやらせてみる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さを比べる ・数える ・一列にそろえて並べる ・1まいずつ一緒に出していく <p>② ドッジボールをしたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んで、手をつないで座る ・数える <p>2 教科書を見て、トマトとソフトクリーム の数を比べる方法を考える。</p> <p>3 にんじんと気球の数を、線を引いて直接 比較して比べる。</p> <p>4 みかんとあめの数を比べる。</p> <p>5 バナナと飛行機の数を、間接比較をして 比べる。</p> <p>6 隣の人とおはじき取りゲームをして数 を比べてみましょう。 (じゃんけんをして勝ったらおはじきを もらう。数を比べて勝敗を決める。)</p>	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">算数3 【8日目】</div> <p>★幼児期の数を比べる活動との関連</p> <p>幼児期の遊びの中での比べる経験を十分思い出すように指導する。(幼児期は、数が数えられない時期でも、ドッジボールの人数やカルタの数などを比べるときに、並べて比べるなど、1対1対応を使って比較を行っている。)</p> <p>★幼児期は、砂遊びをしている子供とスコップの数、ままごとのお皿と食べ物の数を比べるなどの遊び、給食と友達の数や布団と友達の数を合わせるなど、生活の中で1対1対応を意識させる場面が意図的に作られ、指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクターで教科書の絵を映す。 ○2つの集合の要素を線で結んで直接比較することによって、数の多少が分かることを押さえる。 ○「○○と○○の数は同じ」「○○の方が多い」などの表現に慣れるように繰り返し指導する。 ○実際に線を引いてみると比べにくいことに気付かせ、もっとよい方法を考えるようにする。 ○線を引く直接比較では、分かりにくいことに気付き、おはじき等を置いて、間接比較する方法を理解できるようにする。 ○おはじきかブロックを用意する。 ○一対一対応させながらおはじきの数を比べているか、見取る。 <p>★ゲーム的な要素をもつ集合遊びを取り入れることで、楽しんで数を比べる練習ができる。</p>